



戦後80年のあゆみ

くりやがわけんいち

第11回 ホールを彩る大どん帳、栗谷川健一の活動を支えた学校の仲間たちと経済界

北海道旗や札幌オリンピックのポスターを手がけたデザイナーの栗谷川健一は、明治44年に岩見沢町に生まれ、大正6年に岩見沢尋常高等小学校（現在の岩見沢小学校）へ入学し、転校後も同期生とのつながりを大切にし続けました。小学校卒業後は札幌市の看板店に奉公しデザインの道を歩み始めました。戦時下に独立した後は、映画看板や鉄道ポスターの制作によって生計を立て、終戦後はいち早く活動を再開し、観光ポスターの分野で注目を集めようになりました。昭和20年代後半になると、文化団体の活動が盛んになり、岩見沢市はその活動場所として、昭和30年10月に旧市立病院の建物を改修し市民会館として開設しました。しかし、市民の間からは、より大規模な集会ができる施設を熱望する声が高まり、昭和35年には婦人団体や文化連盟、青年団体が集まり「大集会所建設促進期成会」が結成され、市制施行20周年の昭和38年に新たな市民会館が開館しました。新市民会館は、札幌市民会館に匹敵する規模と最新設備を備え、大ホールを彩る大どん帳は、デザインを栗谷川が担当し、制作は市内の森百貨店が手掛け、市内にトラクターの研修場を開設したばかりの久保田鉄工から寄贈されました。「太陽」をテーマとした大どん帳は、故郷の岩見沢市が北海道を明るく照らす太陽であってほしいと願ったもので「後世に誇り得るものを残すべき」との栗谷川の思いは、現在のまなみーる市民会館の大ホールを彩るどん帳として引き継がれています。空知信

用金庫も、昭和50年に創業50周年を記念して鳩のシンボルマークの制作を依頼するなど経済界も栗谷川を支えました。

平成6年、栗谷川は絵描きとしての才能を見いだしてくれた母校の青年教師と仲間たちへの恩返しに、北海道の四季の風景を描いた30点のシリクスクリーンを岩見沢小学校に寄贈し、翌年には絵画ホールで作品展を開催しました。まなみーる市民会館の大どん帳や絵画ホールに残る作品の数々は、郷土から世界へ羽ばたいたデザイナーと、それを支えた学校の仲間たちや経済界の活動が実ったものです。



市民会館に設置された大どん帳「太陽」
(昭和38年5月)

広報クイズ

正解者の中から抽選で10人に図書カード500円分をプレゼント

問題

やりたいことを仕事にする創業。市は、創業塾などさまざまな支援を行つておる、これまで□□□人が新たな一步を踏み出しています。□に当てはまる言葉をお答えください

締め切り 2月20日金（必着）

応募方法

はがき、市ホームページのフォーム、ファックス（0126-23-9977）、Eメール（pr@city.iwamizawa.lg.jp）で、●クイズの答え●住所●氏名●年齢●電話番号●広報紙に関するご意見・ご要望を必ず記入し、総務部秘書課広報室へ。当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。1月号の正解は切れ目でした



人の動き

住民基本台帳（令和7年12月31日現在）

人口	男 33,908人	（前月比 - 83）
	女 38,863人	（前月比 - 68）
	総数 72,771人	（前月比 - 151）
世帯数	40,059世帯	（前月比 - 72）

広告

岩見沢市役所

〒068-8686 北海道岩見沢市鳩が丘1丁目1番1号

☎ 0126-23-4111（代表） FAX 0126-23-9977

ホームページ <https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/>



ホームページ



X (旧Twitter)



Facebook



Instagram



LINE

広告募集中

広報いわみざわに広告を掲載しませんか

募集枠数 各号2枠（申込多数の場合は抽選）

掲載料 各号1枠 22,000円

申込期限 掲載希望号の3カ月前の月末

（5月号に掲載希望の場合は3

月2日（月）までに申し込み）

申込方法など、詳しくは市ホームページ

をご覧ください



ID: 14518